



## 風邪と抗生剤

抗生剤もしくは抗生物質とは感染症の治療に使われる薬で、一般的には抗菌薬と同じような目的で使われます。小さな子どもからお年寄りにまで処方されるので、抗生剤治療を受けたことがある方は多いと思います。抗生剤を処方されたら、どんなことに気を付ければよいのでしょうか。

Text by 欧州日本人医師会 山田佳奈 医師／一般内科・感染症科（サランシュ フランス）

### + 抗生剤の効かない感染症？

感染症を起こす病原菌は、ウイルス、細菌、真菌、寄生虫・原虫の4つのグループに分けられます。この中で抗生剤が有効なのは細菌による感染症のみです。ですから細菌以外が原因の感染症にいくら抗生剤を投与しても全く効果はありません。真菌による感染症には抗真菌薬を、寄生虫・原虫による感染症には抗寄生虫・原虫薬と、それぞれの病原菌に合った薬剤を使用します。ウイルスによる感染症には抗ウイルス薬が存在するものもありますが、大半のものには特効薬はありません。私たちの体に備わっている免疫機能が自然とウイルスを排除し、感染症を治癒してくれるのです。

例えば、咳、くしゃみ、鼻水、喉の痛み、発熱などを特徴とするいわゆる「風邪」は、大人の場合、ウイルスによる感染症である確率が約99%といわれています。つまり、典型的な風邪を引いた場合は、免疫機能のおかげで数日もすれば自然に治癒するので、抗生剤が必要となることはほぼありません。ただし、数日たっても症状が改善しない、それどころか悪化するなどの場合には、ウイルスによる感染症に加えて細菌が重複感染を起こしている可能性があります。この場合は、抗生剤が必要になることがあるので、速やかにかかりつけ医の診察を受けましょう。

### + 薬剤耐性

抗生剤の効かない感染症は他にもあります。細菌に、ある種類の抗生剤に対する耐性が生じると、本来は有効なはずの抗生剤がその細菌に対して効かなくなってしまうのです。耐性の発生は抗生剤の不必要・不適切な使用によるもので、現在世界的に問題となっています。いざ抗生剤が本当に必要になった際に、耐性のせいでは有効な抗生剤が見つからず、満足な治療ができないということもありうるのです。



### + 抗生剤を処方されたら？

もちろん抗生剤による治療が必要な感染症もたくさんあります。抗生剤を処方された場合に大事なことは、必ず指示通りに内服するということです。症状が良くなったからといって、決められた期間を守らずに途中で服用をやめてはいけません。ただし、副作用と思われる症状が出た場合はかかりつけ医に相談し、必要に応じて他の種類の抗生剤を処方してもらってください。また、以前に処方された抗生剤の残りを自己判断で服用することは絶対にしないでください。医療機関を受診する前に服用してしまうと、感染症の原因となっている菌がわからなくなり、適切な診断や治療ができなくなってしまうからです。

正しい治療も大事ですが、最も大切なのは、十分な休息と適度な運動、栄養バランスの取れた食事によって感染症にかかりにくい体を作ること、そして手洗いやうがい、予防接種などによって予防することです。

### 欧州日本人医師会 電話無料健康相談のご案内

(ご注意：診察ではありません)

欧州9カ国、20名余りの非営利団体に属する日本人医師が、海外赴任や旅行など不慣れた海外生活での医療に関する、無料の健康相談を行います。

健康相談は予約制です。下記のEmailアドレス宛にメールをいただくか、医師会ウェブサイトからお申し込みください。

**jmaeurope@googlemail.com**

その際、大まかな相談内容（例えば、小児科についての相談など）、お名前、国名、Emailアドレス（間違えないように、はっきりとお書きください）、差し支えがなければ連絡先の電話番号もご記入ください。後日、担当者より電話相談の日時をお知らせいたします。

電話番号：+49 9951 9493 399

上記電話番号は、予約した日時しかつながりませんので、ご注意ください。

<http://www.eu-jp-doctors.org>